

松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No.33 2022年11月発行

■ 特別展「海をひらく—弥生・古墳時代の海民—」開催中!

鹿島地域には、縄文時代以降の遺跡が数多くあります。弥生時代にいち早く渡来人が住み着いたのもこの地域でした。地域内の遺跡には各時代を通じて列島各地、朝鮮半島の遺物が見られ、鹿島地域の人々が海上交通を用いて各地と交流・交渉した様子がみてとれます。

古代、海の玄関口であったこの地域の海民たちの活躍を、豊富な考古資料や写真で紹介します。1月15日まで。



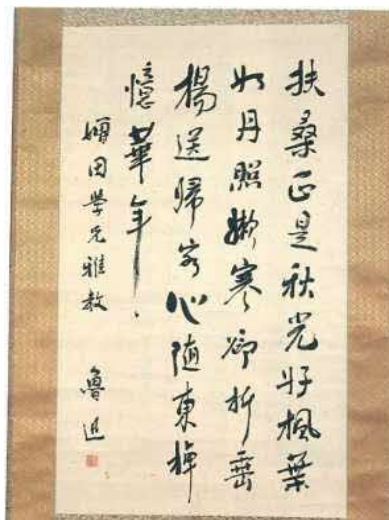
■ ミニ企画展「魯迅—詩と書簡—」

11月18日より1月15日まで、中国の文豪 魯迅が増田渉に送った書と手紙を紹介するミニ企画展を当館2階「増田渉記念室」で開催します。

増田渉は鹿島町片倉出身の中国文学研究者で、魯迅をはじめ近世・近代中国の小説の翻訳、研究を数多く発表しています。

青年増田は渡航した上海で偶然魯迅と出会い、10か月間毎日一対一でその著書についての講義を受けるという幸運に恵まれました。帰国後も増田は質問状を送り、上海の魯迅と恵曇村(現松江市鹿島町)の増田の文通は、魯迅が亡くなる直前まで、5年にわたり続きました。

今回の展示では、魯迅が増田にあてた手紙58通のうち一部と、増田の帰国時に魯迅が贈った自作の詩を紹介します。



1978年10月24日、日中平和友好条約の批准書交換のため来日した鄧小平副総理(当時)は、日本の友好団体が主催したレセプションにおけるあいさつの中で魯迅が増田に贈ったこの詩を朗読しました。

■ 4館連携スタンプラリーに参加して、すてきな景品を手に入れよう!

ただいま松江市秋の古代展スタンプラリーを開催中です。「鹿島歴史民俗資料館」「松江歴史館」「八雲立つ風土記の丘」「出雲玉作資料館」を観覧し、4館のすべてのスタンプを集めた方に4館からの景品詰め合わせをプレゼントします。ふるってご参加ください。1月15日まで。